

道に導き、金匱無缺の名譽を保たんには、國民一般が摯剛健の氣風を養ひ、各個の仕事の上に一層の眞劍味を以て努力せなければ成らないのでありますが事實に於ては大いに之に反し國民の大多數は文化の餘毒に陶醉し、奢侈淫靡の惡氣流は各階級に充滿し人々は享樂の影を追つて亡國への道を歩みつゝ、殆どサーニストさへ唱へ出さんかの如き憂ふべき状態を呈して居るのであります。かくの如くの状態にあつて、もし領土の近海に戰雲が捲き起らんか、國家の前途は果して何うなるでありませう、思ふてこゝに至るに全身に粟生ずるの思ひあります、この淫蕩時代に於て、唯一の城壁として信頼するに足るべきものは、陛下の股肱として許された帝國軍人團であらねばならぬ、吾々軍人は、そ

の名に於ても國家の干城であると同時に、其の實に於ても國家の干城に恥ぢないだけの修練を積み、自身に於ても亦國家の干城を以て自任してゐる武士道の持主なのであります、然るにもしこの團體にして破れるに於ては、國家しいよゝ壘卵の危きに運び去られるのであります。

今や軍縮は斷行されました、而しそれは量に於ての縮少であつて、その質に於ては反對に益々改善され充實されつゝある、また左もなければならぬのであります、軍縮そのこゝが、決して軍備の不必要とするものではない。

諸君はよく國家の現状と、世界の趨勢と、各個の責務を思ひ、業に従つては益々忠實至誠を至し、以て社會の向上、國富の充實に努め、精神を陶冶して

軍人精神を確保し、一旦緩急ある場合には、勇んで國家の難に趣き、よく陛下の股肱たるに背かざるの修養に心掛けられんことを切望して止まぬ次第であります。

本日の總會に際し、諸君の健在を祈り、愚見を披瀝して式辭とするものであります。

○接觸面—他に接する場面○金甌無缺—完全にして缺ける所なし○洵醉—よふ○サ
ニスト—墮落を認める○壘卵—危い

同 上 (参列者祝辭)

私は軍人以外の身を以て、名譽職にあるが故、本日の總會に列するの光榮を得たことを感謝します。

諸君は、現役を終つたとは云へ依然として國家の柱石であり、陛下の股肱なのであります。従つて其の名譽も甚大であると共に、責務亦重大であらねばなりません。

帝國は今や内外多事で有りまして、一個の國民としては諸君の精勤勉努に待つどころが多く、一旦國難來を傳へられるに方つては、諸國によつて國家を救つて頂かねばならないのであります。かゝることは私如きが今更申す迄もなく、諸君は徹底的に之を感知して居られるものであることを信じて居りますか

ら、餘り多くを云ふを謹みます、たゞ私如き半白の老人も陛下の聖意を奉戴し、日夜孜々として國民たる者の義務に盡しつゝあることを認めて頂けばそれで私の本懐は達せられる次第であります。

こゝに謹んで本會の前途を祝福し諸君の健在精勵を祈つて祝辭をいたします

○柱石—第一の力○國難來—戦争

凱旋軍人を迎ふる辭

本日こゝに凱旋の諸勇士を迎へ、歡迎會を催すは、吾々の欣幸とするところであります。

昨年何月、動員令が下るや、諸君は帝國軍人たる名譽の爲めに、親子を振り捨て、一命を捧げて遠くシベリヤに遠征しましたが、その向ふ所、戦へば勝ち攻むれば破り、宛ら暴風の枯野を吹き渡る如き勢ひを以て百戦百勝の大功を收め、遂に敵をして和を請はしむるに至つたのであります、かくの如きは一に觀聖文武なる陛下の御威稜に依るとは云へ、また諸君が義勇奉公の鐵石心を以て必勝を期し、決死の勇を振はれた功と云はねばならぬのであります、國民上下の感激措く能はざるこころであります。

今日諸君を招じて祝杯を擧げる所以は、この感謝の衷情を披瀝せんご欲するもので、素より粗酒粗肴、諸君が積日の勞苦を慰むべく、その萬分一にも足り

ませんが、幸ひに微意のある所を諒ごされ、共に一日の歡をつくされんことを切望する次第であります。

○鐵石心―動かぬ心○必勝―きつと勝つ○衷情―まごころ○微意―自分の心

戦歿者追悼式弔辭

本日友人故(陸海軍官職氏名)氏の追悼會を營むに際し、感慨無量なるものがあります。

曩に我軍膺懲の師を起し、罪を某國に問ふに當つて、君も名譽ある帝國軍人として之が召集に應じ、敢然として萬里征討の途に上られたのであつて、當時

の颯々たる英姿は、今も尙眼前に髣髴として居ります、從軍以來職に奉ずること最も忠誠、大小數度の戰鬪に参加して能く國家の干城たるの本分を盡されたることは、上下戰友の嘆賞して措く能はざるところでありましたが、何年何月何日、彼我勝敗の決を一戰にして決せんとする某地の激戰に際し、奮闘挺身、敵に多大の損害を與へ、軍人としての眞價を遺憾なく發揮し、將に我軍の大勝を見んとするの刹那、偶々飛び來る敵彈の爲めに一塊の肉片を留めて壯烈なる名譽の戰死を遂げられたのであります。

君は天性忠誠にして勇敢、しかも溫容玉の如き人格の支持者であつたが、今や千載偉功を歴史に止めて軍國に殉じ、その溫容に接することが出來ないの

は哀悼措く能はざる所であります、去り乍ら生ある者は必ず死あり、軍人として國難に殉せられたことは、男子として能くその死所を得たるものにして、君の英靈亦冥すべきであります。こゝに謹んで弔辭を述べ、君の靈を慰める次第であります。

○膺懲—こらす ○鬚髻—そのままに見る ○挺身—眞先に進む ○支持者—持ち主

最新五分間演説終

大正十五年五月十五日印刷
大正十五年五月二十日發行

△著者 美濃徳行

△發行者 服部勘太郎
大阪市南區壱町四丁目十八番地

△印刷者 山田元吉
大阪市南區安堂寺橋通二丁目二六

△發行所 服部文貴堂
大阪市南區壱町御堂筋西入

振替大阪一五六四八番

最新五分間演説

定價八十五錢

郵税六錢

不許複製

終